

市民クラブ市政報告

発行：姫路市議会市民クラブ 姫路市安田四丁目1番地 ☎：079-221-2042 編集責任者：竹尾 浩司



お世話になります。
皆様にご支援・ご支持頂き活動を進めております、『姫路市議会 市民クラブ』の仲間です。

今回は、『令和4年度姫路市予算のポイント』、職務遂行体制を強化するため副市長の定数を2人→3人に改めようとする『姫路市副市長定数条例の一部を改正する条例』。そして2/21～3/29までの37日間で開会された、『令和4年第1回姫路市議会定例会』での代表・個人質問についてご報告致します。

I. 『令和4年度姫路市予算のポイント』について

【予算の特徴】

- ・全会計を合わせた予算規模は3,875億円（過去第6位）、一般会計は2,178億円（過去第6位）
- ・一般会計における経常的経費は、前年度比66億円増の1,935億円で過去最大（3年度11月及び2月補正予算を加えると1,966億円）
- ・うち義務的経費は金額、比率とも過去最大、うち扶助費は9年連続で過去最大を更新
- ・投資的経費は、給食センター整備や市川美化センター長寿命化等大型事業の完了により前年度比70億円減の243億円（3年度2月補正予算等を加えると302億円）
- ・収支不足は33億円で前年度より11億円の減

【4つの最優先課題】

- ① 未来を育てる『ひとづくり改革』
 - ・出会いから結婚、妊娠・出産期の支援
 - ・学齢期からの支援
- ② 生活の質を高める『デジタル改革』
 - ・行政のデジタル化の加速
 - ・マイナンバーカードの普及・利用促進
- ③ 成長を促す『グリーン改革』
 - ・ゼロカーボンシティの推進
- ④ 発展を支える『まちづくり改革』
 - ・にぎわいと感動にあふれるまちづくり
 - ・ひめじ創生SDGsの推進
 - ・新県立病院の開院
 - ・手柄山中央公園の再整備
 - ・広域交通網の整備



【給食の第3子以降の無償化】



【遠隔行政窓口の設置】



【姫路城のゼロカーボン化】



【手柄山中央公園の再整備】

II. 『姫路市副市長定数条例の一部を改正する条例』について

「国や県と連動して行うべき事業が増える中、手柄山中央公園の再整備や播磨臨海地域道路網の整備に向けた都市計画や環境影響評価の手の本格化、さらにアフターコロナに向けたグリーン・デジタル・ひとづくり・まちづくりという4つの大きな改革への積極的な取組など、令和4年度から取り組むべき重要な行政課題が数多くあることから、副市長を3人体制とし特命的に役割を分担しつつ、連携を図ることで効率的・効果的な運用を行いたい」と説明を受け、賛成多数で可決された。

なお、人選については技術管理監の志々田氏が選任され、可決された。

V.『令和4年第1回姫路市議会定例会』での代表・個人質疑について

阿山正人議員が質問しました

市長の政策実現に向けた 副市長3人体制についての見解を質す！

【代表質問：質問日 3/3】

清元市長3度目となる令和4年度予算編成の中から、市長の決意をはじめ、主要施策11項目について代表質問を行い、その中から『副市長3人体制の意義』、『不当要求議員が関わる事業への予算措置』の2件についてご報告します。

● 現行2名の副市長を3名に増員する条例改正について

Q: 行革や新型コロナの影響による財政負担等で、議会内では様々な考え方があるが、市民クラブは市長の政策実現に必要であれば決断は尊重するが、どの分野に人材を配置し、どういった効果を発揮させるのかが最も重要であり、それらに対する市長の見解は？

A: 高度な政策判断や国・県との連動性等に対応するには、高いレベルでのマネジメント力が必要であり、3副市長には播磨臨海地域道路、姫路港でのカーボンニュートラルポートの推進、手柄山中央公園整備などの基盤整備等で、私と3副市長で緊密に連携することで、複雑化・多様化する市民ニーズや行政課題にきめ細やかに対応できるようになる。

● 不当要求委員が関わる事業への予算措置について

Q: 令和3年度予算審議の中で大きな問題となり、特別委員会でも不適切と指摘された白浜小学校相撲場や東部析水苑多目的グラウンド等の予算措置なども含めた令和4年度の対応は？

A: 白浜小学校相撲場の今後の方針は、現在検討を進めており令和4年度予算には計上していない。東部析水苑多目的グラウンドの今後の活用は、他の施設と同様に広く市民利用ができる方法を検討したい。令和4年度予算措置は維持管理経費のみを計上している。

Q: 白浜小学校相撲場は、土俵の高低差による安全面の問題だけでなく、宗教施設を想起させる意匠の屋根が教育施設として非常に問題であり、どうしても利用したいのであれば、別途予算をかけてでも土俵の段差を解消すべき。また、屋根をそのまま利用することは、市民クラブは絶対反対であり、公園などに移設して下にベンチを置くなどして、休憩施設として活用することを検討すべきである。

A: 今ある相撲場を現地で活用したいと考えていたが、提案いただいたことも意見も選択肢の1つとして検討を進めたい。



八木隆次郎議員が質問しました

補助金活用と、医療的ケア児支援法施行後の 本市の取り組みについて！

【個人質問：質問日 3/7】

6項目について個人質問しました。その中から①国の補助金メニューなどの積極的活用②障害児・者への取り組みの2件についてご報告します。

● 国の補助金などの活用で自治体や民間活力の向上を！

Q: 予算議会とも呼ばれる第1回定例会ではあるが、今回の予算計上以外においても各省庁から出される補助金メニューは通年を通し多岐にわたり出されており、地方自治体としては施策に合った補助金メニューを探し、その獲得に取り組むべきではないか。

A: 国補助制度などの情報については当方からも情報発信するとともに商工会議所をはじめ関係団体等を通じて情報提供をいただくことで民間活力の活性化につなげるようになっていきたい。

● 医療的ケア児及びその家族に対する支援法施行後の本市に取組みは？

Q: 地域の小中学校では医療的ケアの必要なケア児の家族は毎日学校について行ったり、2次調理の必要な児童の保護者も学校に毎日通っています。またスクールバスに乗れない医療的ケア児の家族は毎日学校まで送迎を行ったりしていますが、支援法の施行後、どのような制度変更や保護者への負担軽減が行われるのか？

A: 医療的ケア児への支援については市立学校園への看護師の派遣を行い、保護者の負担軽減を図ります。また通学支援については看護師が同乗する介護タクシーの派遣を行い対象児童が月1回程度利用できるようになります。2次調理の実施に必要な調理員の体制及び衛生的な調理場所が確保されておらず、また個人に応じた食材の選定や調理方法の慎重な検討も必要であり特別支援学級のような2次調理を地域の小中学校で実施することは困難である。



三輪敏之議員が質問しました

より安全安心なまちづくり 強いボランティア集団を！

【個人質問：質問日 3/9】

本定例会に4項目について個人質問しました。①デジタル化の推進 ②屋台会館建設要望 ③ボランティア活動 ④消防団・自主防災会について、ご報告します。

● デジタル化について

Q: デジタル化へ移行する上で、サイバーセキュリティ対策、国とのシステム連動。また全国的な人材不足にどうやって対応していくのか。全国的に見ての進捗度は。

A: 新たなウィルス対策も考え、常に新たな防御システムを導入。国・県などと3つのネットワークに分けたシステムとしている。中軸を担うものが不足している。

● 屋台会館建設要望について

Q: 屋台会館建設要望に109,442名署名があり18年経過、明確な動きが無く何年も。

A: 会館建設については取組んでいないのが現状で、今後についても難しいと判断。

● ボランティア活動について

Q: フードバンクが包括的な連携体制を確保し生活困窮者等を支援。市の関わりは。

A: サポートセンターとマッチングしながら様々なニーズに対応している。情報の共有等。社協等とも連携し、市民活動を積極的に取組めるようにサポートしている。

● 消防団員の成り手不足や自主防災会の防災能力の向上策について

A: 女性消防団員や学園等との連携にも強化し、団員の増強を図る。地域防災力向上研修をしている。

